商工会 カラオケ大会

小木さん、満点優勝

マイク握れば私も歌手よ

各地でカラオケが盛んになっているなか、商工会青年部横越支部（物井輝光支部長）では、カラオケを通じて住民とともに楽しみ、商工振興に明るい話題を吹き込もうと、第一回カラオケ大会を七月十八日夜公民館で開きました。

この大会は、大字横越を対象に自慢ののどを二十二名が競ったもので、会場へは三百名の観衆がつめかけ、拍手と歓声で館内は熱気に包まれました。出場者は、いずれも手振り身振り、感情を込めて歌い、玄人顔負けの堂々たる人ばかり、カラオケの熱病は、年齢関係なしといった感じです。ことにママさんたちの活躍は素晴しく男性を圧倒して優勝、準優勝、特別賞を獲得しました。

審査には、この道のセミプロともいわれている原野和子さんを委員長に、佐藤商工会長、田中教育長、山崎公民館長ら十名が当り、結果は、小木さんが満点で優勝、準優勝に八幡さん、特別賞に丸山さんらが選ばれ、それぞれダイヤモンド、金、銀、銅各賞と金一封が贈られたほか、観衆にもくじ引の景品が当るお楽しみもあって、賑やかさは極に達しました。

ゼスチャーたっぷり玄人も顔負け

入賞者は次のとおり

優　勝　小木　揚子（恋心）横越中
準優勝　八幡マサ子（私のあなた）川根谷内
三　位　渡辺　勝俊（名月赤城山）横越上
特別賞　丸山　重（天の川情話）川根谷内
青年部賞　増島勝義（無法松の一生）川根谷内
楽しかった賞　坂井正四（みちずれ）横越下

深刻な高齢化社会

シリーズ No. 3

将来心配な年金制度

高齢化社会が世界にも例をみないスピードと規模でやってくるといわれていますが、高齢者の老後の所得保障として年金の需要は、一層強まることが予想されます。

しかしながら、その費用負担が将来大問題となり、現行制度のまま年金水準を維持するのは困難ではないか、ということが各方面で強調されています。

参考資料　(S57.4)

横越村の年金受給者数

国民年金	拠出年金	798人
	福祉年金	417
厚生年金		45
共済年金		101
農業者年金		56

年金制度未成熟たが…
高齢化社会の進行で
現行制度の見直しが
要請されている

わが国は、昭和三十六年から皆年金体制になり、すべての国民は、何らかの年金制度に加入して、老後の所得保障を受けられるシステムになっており、公的年金だけでも八種類あります。

つい最近まで、高齢者の福祉向上は、年金制度の充実にあるとして、〝年金時代の到来〟と騒がれていましたが、高齢化社会が猛烈なスピードで進んでくると、どうしても費用負担が国民経済的に重要問題となるのは、当然考えられてきます。

今後、高齢者の人口は、昭和五十年から昭和八十年の三十年間で、今の二倍半近くになるといわれています。

これに対して年金を通して扶養する立場におかれている20歳から50歳までの中堅稼働人口は、三十年間に一割程度の増加でしかなく、この両者の動向が年金の経済的バランスを欠き年金制度が維持できなくなるというものです。

つまり、年金は高齢者が過去何十年間積立ててきた保険料を年金の形で受けとるというものでなく、若い世代の支払われる保険料から高齢者が年金として受けとっているといってもいいと思います。

極端に言うならば、若い世代の人が年金を支えているということで、高齢者の数が増えればそれだけ、若い世代の人たちの負担が多くなるということです。

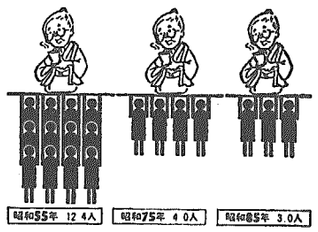
日々是好日…社会保障としての年金制度確立を期待

いま臨時行政調査会等で問題になっていることは、年金制度に国の財政負担が大きい。もっと保険料を増額すべきだ。給付水準を押えるべきだ。年金受給開始年齢を遅らせるべきだ。スライドのあり方に、再検討を要するなどが指摘されています。

今より後退した年金制度になるのではないか、と年金制度の将来に不安をもっている人も少くありませんが、とにかく高齢化社会は間違いなくやってきます。

社会保障としての年金制度を確立していただくとともに、医療や福祉サービスの向上によって高齢者のニーズを満たす政策と、貯蓄や企業年金、財産形成、私保険の発展など所得保障にさまざまな工夫を講じてほしいものです。

1人の老齢年金受給者を支える加入者の数の見通し(厚生年金)



あなた、シートベルトは？
―急がず気をつけて―
指導所で梅干のサービスも

村では、七月二十二日夏の交通事故防止運動の一環として、国道四十九号線で交通安全指導所を設け自動車の安全運転指導を行いました。

ベルトは命の綱ですよ

指導所となった農協ガソリンスタンド前には、新潟南警察署、村内交通安全協会各支部、交通安全母の会の関係者及び村長ら二十九名が、午後一時過ぎから約一時間にわたって通過する車を止め、梅干とチラシを渡しながら「シートベルトはかけてますか、スピードを出さずに」と呼びかけました。

指導所では、通過した車のシートベルト着用状況を調査した結果、二百九十四台中、着用は僅か十三台（4％）でした。暑さのためかこの数字は、ドライバーの着用慣習がないことを物語っています。

「暑いから」「面倒だ」「きゅうくつだ」こんなことでは〝まさか〟のとき命の綱は空振りしてしまいます。

水泳は細心の注意で
子供を水の事故から守ろう

夏休み……海やプールはチビッ子たちでいっぱい。水しぶきの中で、どの顔も輝いて生き生きしています。

しかし、その半面、毎年ちょっとした不注意から、思いがけない悲しい事故が相次いで起きています。

昨年夏（六～八月）に、海や川などで水の犠牲となった子供（中学生以下）は四百十人を数え、同じ期間中の交通事故による死者二百七十一人をはるかに上回っています。

水をことさら怖がる必要はありませんが、かといって、甘くみると取り返しのつかないことになります。

子供を水の事故から守るために、海や川、プールなどで泳ぐ場合は、次の点を十分注意しましょう。

出掛けるとき

☆一人では絶対に泳ぎに行かないようにしましょう。

☆寝不足・空腹・疲労は水泳の大敵です。

泳ぐ前

☆泳ぐ前には、少なくとも五分間ぐらい準備体操をしましょう。

☆水に入る前、シャワーがあればたっぷり浴び、海や川では足、手、顔、頭といった訓序で、心臓に遠いところから水につけるようにしましょう。

泳いでいるとき

☆子供の場合、一回の泳ぐ時間は十五～二十分ぐらいが限度です。何度も水から上って泳ぐようにしましょう。

☆泳げない子供は浅瀬で遊ぶぐらいにとどめましょう。

※※※新潟県芸術祭※※※
文芸部門作品募集

県教育委員会では、昭和57年度芸術祭文芸部門の作品を募集しますので振ってご応募ください。

記

1.種目、応募資格

課題は自由題とし一般、高校の部を設ける。

◎小　説
（一般四百字詰原稿用紙50枚以内、高校四百字詰原稿用紙20枚以内）

◎詩
（一般高校とも四百字詰原稿用紙4枚以内で現代詩とする）

◎俳　句◎　川　柳
◎短　歌
（一般高校とも一人新作5首を一編（つながりがなくともよい）とする）

※一般の部は県内在住者はだれでも応募できる。（小、中、高校生は除く）

※高校の部は在学中のもの

2.応募数

一種目につき一編限りとする。ただし一人二種目以内とする。作品は未発表作品であること。

3.応募締切

昭和57年10月9日（消印有効）

4.あて先

〒九五一
新潟市一番堀通町
県庁第2分館

新潟県教育庁文化行政課とし、封筒表面に「県芸術祭文芸作品応募原稿」と朱記する。その際あて先明記の返信用葉書を同封すること。

※応募上の注意、その他

詳しいことは、教育庁文化行政課（電話〇二五二(23)五五一一内線三六七五）へお問い合せください。

8月17日から
燃えないゴミ収集日が変更

燃えないゴミの収集日が次のように変更になりました。これは燃えるゴミの収集日といっしょになったためで、間違わないようお願いします。

横越、川根谷内、焼山	沢海、木津、二本木、小杉、藤山、駒込
57年8月18日(水)	57年8月17日(火)
10月15日(金)	10月14日(木)
11月5日(金)	11月4日(木)
12月28日(火)	12月27日(月)
58年1月5日(木)	85年1月6日(木)
1月28日(金)	1月27日(木)
2月4日(金)	2月3日(木)
3月4日(金)	3月3日(木)